

『創造都市を創造する』

27. 「創造都市キタ（扇町創造村）」構想

★この地域貢献実績は⇒「日経グローバル」大学の地域貢献全国754大学中4位にランキング

【大阪市大が日経グローバルで 全国大学中 4位の高評価、創造都市研究科の重点研究プロジェクトも取り上げられる】

大学評価で有名な『日経グローバル』誌は、2010年11月15日号発行の160号と12月6日発行の161号において、大学地域貢献を特集。

(1) ここで発表された2009年度の全国大学の地域貢献度ランキング（754大学調査、517校回答）において、大阪市立大学が、地域貢献総合ランキングで、全国大学中4位、全公立大学中2位、近畿ブロック全大学中1位の成績をあげました。

(2) また「一押しプロジェクト（地域振興（含観光、商店街支援）」（2009年度までのものが対象）において、創造都市研究科の重点研究『創造都市を創造する－21世紀型都市モデルである創造都市の手法で、都市再生、地域活性化図る』が取り上げられました。

(3) これに対し西澤学長は、「(大阪市立大学) 大阪市の”シンクタンク機能” 担う・・・2003年、大阪駅前に「都市」をコンセプトにした社会人向け大学院「創造都市研究科」を開設、都市活性化を担うプロフェッショナルを養成し、市民向けにもシンポジウムなどを公開している。・・・」と談話を載せています。

=====

【北区地域産官学連携（区、商業活性化協会、区商連等）記録】

地域応援サイト『創造都市キタ／扇町創造村』構想（ccキタドットジェイピー）の記録

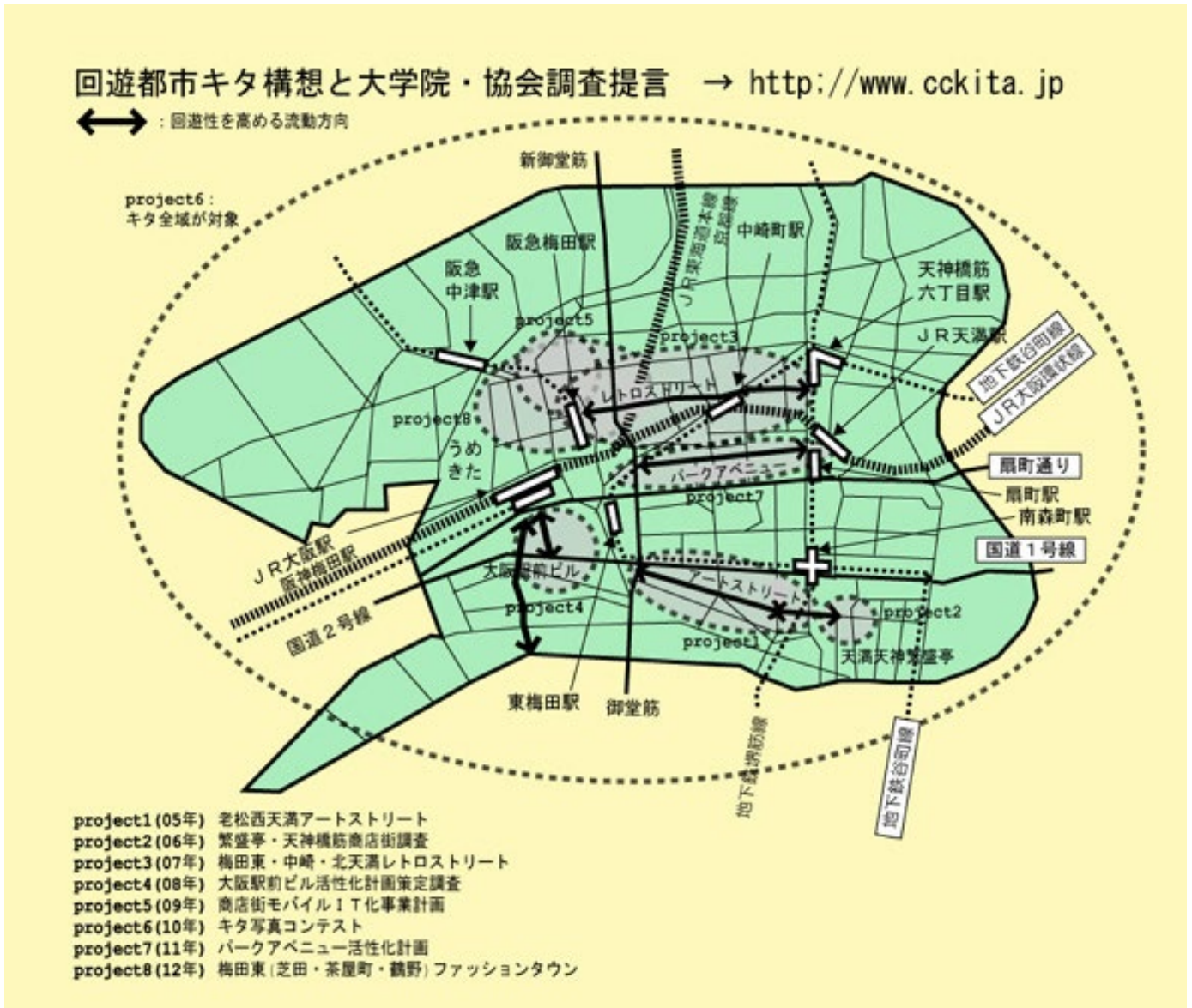
=====

1. 地域新聞「きたまちふれあいタイムズ」編集協力（まちづくりセミナーときたまち探訪を担当）

- 「きたまちふれあいタイムズ創刊号」刊行。2011年1月
- 「きたまちふれあいタイムズ第2号」刊行。2011年7月
- 「きたまちふれあいタイムズ第3号」刊行。2011年10月
- 「きたまちふれあいタイムズ第4号」刊行。2012年1月
- 「きたまちふれあいタイムズ第5号」刊行。2012年7月
- 「きたまちふれあいタイムズ第6号」刊行。2012年10月
- 「きたまちふれあいタイムズ第7号」刊行。2013年1月
- 「きたまちふれあいタイムズ第8号」刊行。2013年8月
- 「きたまちふれあいタイムズ第9号」刊行。2013年11月
- 「きたまちふれあいタイムズ第10号」刊行。2014年2月
- 「きたまちふれあいタイムズ第11号」刊行。2014年8月
- 「きたまちふれあいタイムズ第12号」刊行。2014年11月
- 「きたまちふれあいタイムズ第13号」刊行。2015年2月
- 「きたまちふれあいタイムズ第14号」刊行。2015年8月
- 「きたまちふれあいタイムズ第15号」刊行。2015年11月
- 「きたまちふれあいタイムズ第16号」刊行。2016年2月
- 「きたまちふれあいタイムズ第17号」刊行。2016年8月
- 「きたまちふれあいタイムズ第18号」刊行。2016年11月

「きたまちふれあいタイムズ第19号」刊行。2017年2月
 「きたまちふれあいタイムズ第20号」刊行。2017年8月
 「きたまちふれあいタイムズ第21号」刊行。2018年2月
 「きたまちふれあいタイムズ第22号」刊行。2019年1月
 「きたまちふれあいタイムズ第23号」刊行。2020年1月

2. 連携プロジェクト「創造都市キタ」地図・目次



3. 連携プロジェクト01 (2005年)

「老松西天満アートストリート構想」

老松西天満 アートストリート

www.artstreet.jp

OimatsuNishitenna
Artstreet Site

老松西天満 アートストリート構想

アートは都市再生の鍵
アートをテーマにした都市拠点



老松西天満アートストリート会議

ホームページアドレス <http://www.artstreet.jp/>
(アートストリート・ドット・ジェイピー)

お問い合わせは info@artstreet.jp

【老松西天満アートストリート構想】とは？

1. 老松西天満は…都市再生の鍵であるアートをもった地域です

近年、都市を活性化しにぎわいをもたらすものとして、世界中の都市で、アートの効果が重要視されるようになってきています。大阪市北区は、大阪市内でも、デザインやアート系の業種の半数近くが集積しているという注目すべき地域です。中でも、老松・西天満地域は、大阪では他に例のないアートの集積のある老松通り(古美術商、ギャラリーを合わせて80件程度があると推定されます)を中心とした地区をもち、アートを切り口とした都市活性化の可能性をもっとも秘めている地域といえるでしょう。

2. 今は…キタの力が拡大する時期にきています。

一方、21世紀初頭の現在、北区では、もともと西日本最大のターミナルである大阪・梅田駅を中心に阪急・阪神・JR等の立て替えや北ヤードプロジェクトなど、大規模開発が多数計画されており、衰退する地域が多い大阪の中にあって、例外的に「キタ」の力は拡大しつつあります。それに伴って周辺の町に活性化の動きが多くでてきており、地域活性化のチャンスが到来しつつあります。

3. 老松西天満は…東西を結ぶ表参道

このような中で、老松・西天満地域の動きはやや遅れていました。一方、東部の中心の一つである天神地域でも落語小屋の計画が進みつつあり、北区の2大中心である大阪駅前地域と天神地域を結ぶ中間にある老松・西天満地域に注目があつまっています。「老松町が大阪の発展のなかで初期のキタの中心であり天神の表参道であった」というということが改めて思い起こされます。老松・西天満地区は、大阪駅から歩いて天神に抜けられる位置にあり、アートをテーマにした街区のある、資源を沢山もった地域です。

4. 今は…危機であると同時にチャンス

このような老松・西天満地域ですが、一方で、個性的な町並みが失われかけているという微妙な状況にあることも事実です。いまは、キタ全体の活性化の波にのれるのか、あるいは個性的な町並みが失われるのか、大きなチャンスでもあると同時に危機にあり、地域が一丸となって、アートという個性を生かしてまちづくりをする重大な局面にさしかかっていると思われまます。

5. アートストリート会議が…まずきっかけをつくりまます。

そこで、このたび、老松・西天満地域の古美術・ギャラリー・地域関係者で、作った横断的な組織「老松西天満アートストリート会議」から発信し、老松・西天満地域を、アートをテーマとして活性化する様々な試みを展開してまいりたいと存じます。

！ サイトOPENしました！

<http://www.artstreet.jp/>

老松西天満をアートで活性化するための総合的なアートイベントを企画・運営。

このたび、老松・西天満地域の古美術・ギャラリー・地域関係者で、地域横断的な組織「老松西天満アートストリート会議」を立ち上げ、地域を中心として大学(大阪駅前第2ビルにある大阪市立大学創造都市研究所)などと協力しながら、老松・西天満地域を、アートをテーマとして活性化する様々な試みを展開してまいりたいと存じます。

関係各位におかれましては、老松・西天満をより長くしていくという地域の気持ちを鑑み、構想にご賛同いただきますようお願いいたします。



【老松西天満アートストリート会議】とは？

老松西天満アートストリート会議とは、アートストリート構想の推進のため、老松・西天満地域の古美術・ギャラリー・地域関係者で、立ち上げた横断的で自由な組織です。大学(大阪駅前第3ビルにある大阪市立大学創造都市研究科や大阪芸術大学)などと協力しながら、老松・西天満地域を、アートをテーマとして活性化させる様々な試みを展開してまいりたいと存じます。

【老松西天満アートストリート会議】これまでの実績

1. 『平成17年度大阪市北区商業活性化協会商店街調査研究採択事業』に採択されました。

- 1) アートストリート祭りの企画・運営：老松西天満をアートで活性化するための総合的なアートイベントを企画・運営する。
- 2) アートストリートとしてのインフラ整備：「天神表参道復活計画」(老松町などの街路を、梅田駅前から、天神までそぞろ歩きできる大人の町として、街路を整備する以下のような検討を行う。
Ⅰ) 電柱の地中化、Ⅱ) 西天満4丁目～1丁目の街路の統一的なイメージ作り、Ⅲ) 灯籠などの整備。
- 3) アートストリートとしてのプロモーション：「老松西天満アートストリート構想」のためのウェブサイト立ち上げと運営。
- 4) その他、アートをテーマとした老松西天満地域活性化の方策の検討と実行。
- 5) こうした構想推進を行うための調査・研究を、大阪市立大学大学院・創造都市研究科の協力を得て、行う。
Ⅰ) 財団法人大阪市北区商業活性化協会と大阪市立大学創造都市研究科の連携協定に基づき、地元町会および当会により、「老松西天満アートストリート構想」の調査研究を申請し、立ち上げる。
Ⅱ) 上記1)～4)についても、大阪市立大学大学院創造都市研究科との協力のもと進める。特に研究成果を公表し、「アートストリート」としてプロモーションするウェブサイトを、地元商店会、古典街、ギャラリー等の連合で立ち上げる。

2. 『平成17年大阪市立大学重点研究「創造都市を創造する」』に 関係する連携プロジェクトとして採択されました。

＜以下同計画より抜粋、1)都市再生のための「実践的な知」の構築、2)開町創造材構想一大学院が所在する北区の具体的な活性化への夢を通した研究。たとえば、具体的な取り組みとしては、理解と認知→蓄養付→運動のフェーズを経て、①シンポジウム「芸術と経済の融合」、②シンポジウム「境界を超える」、③開町創造材フェスタ、④TV番組制作とモノ放送、⑤エディタース・ハウスなどのトレンドの創出、⑥ファッション・ストリートの創出、⑦観劇とライブの街、⑧楽しい食文化の街、⑨回遊性のあるブランド・ショップ街、⑩作品や原画の町・創造現場の見える街、⑪シテザール(芸術志向向けアトリエ付きマンション)、などを発信し、産業と文化を創出するフェーズへと至るなどの例を想定している。このような可能性の研究・検討を行う。3)研究者・地域リーダーの育成＞

(参考)大阪市立大学大学院・創造都市研究科・重点研究「創造都市を創造する」プロジェクトウェブサイト
→http://www.gsoo.osaka-cu.ac.jp/sourou/index.html#2006_t_01
→<http://www.creativevillage.jp/>
→<http://www.artstreet.jp/>

【七夕アートストリート祭り】

ふるってご参加ください!

2006年度7月に笹飾りを活かした「七夕アートコンテスト」を中心としたイベントを企画中心!!

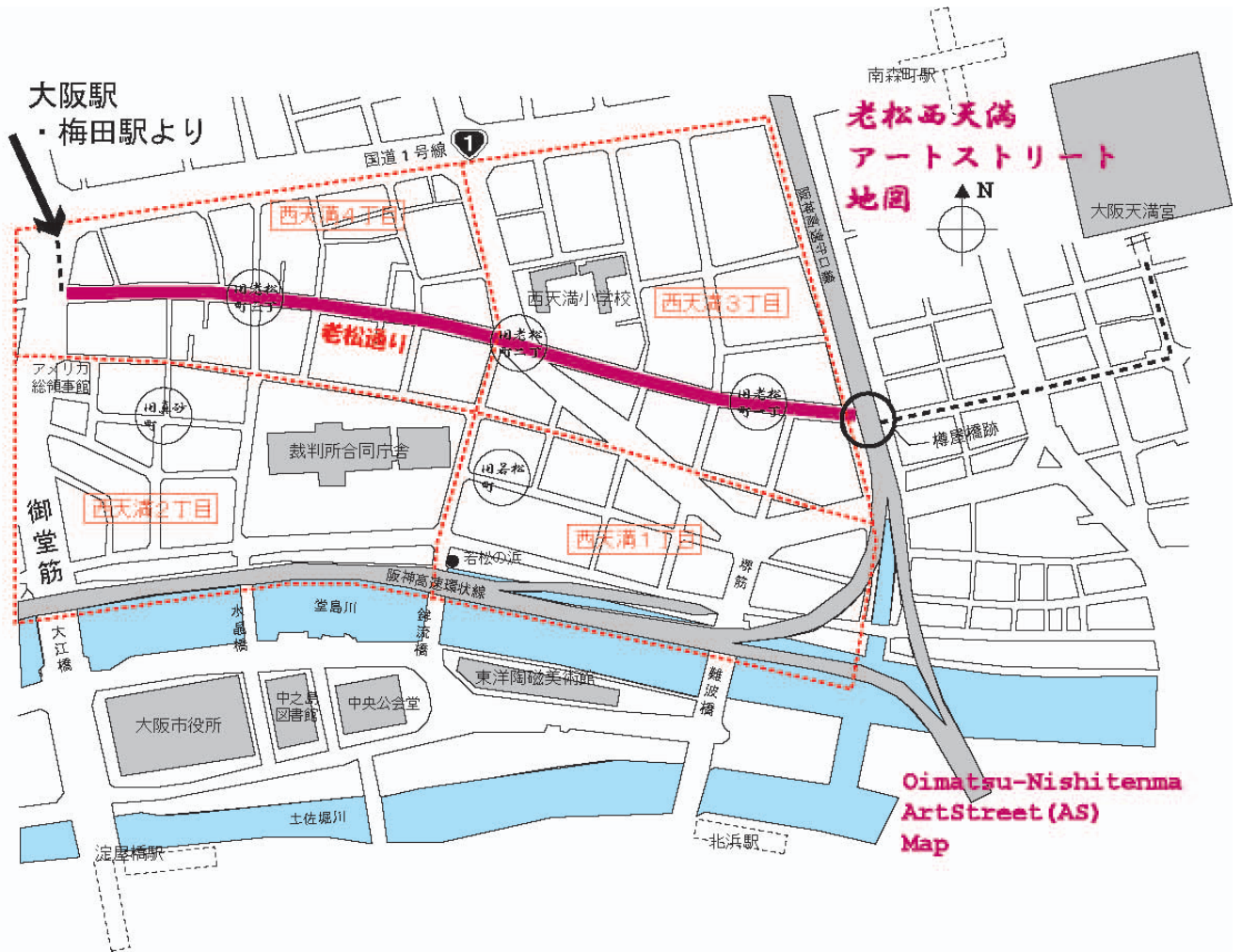
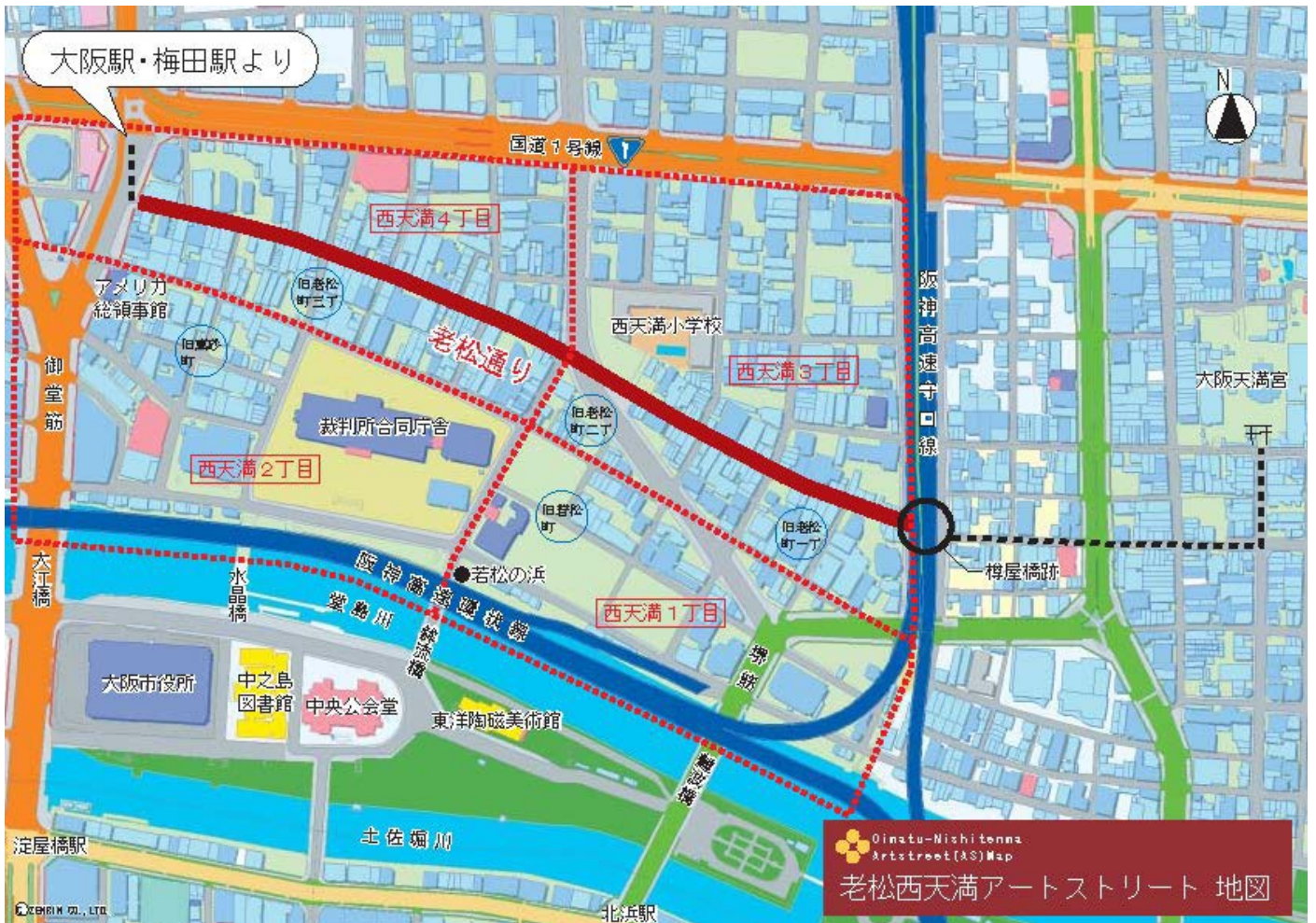
七夕アートコンテスト(いろいろな賞)

- (1)笹飾り大=老松公園(三角公園)と老松通り中央の2箇所にて専門家・学生連携で、芸術的な大きな七夕祭りの笹を飾る。
- (2)笹飾り中=各通りの角にグループ(カテゴリー)単位の特色ある独創的な笹飾り
古典街、ギャラリー、各国、国際色豊かな飾りなど
- (3)笹飾り小=各商店が、七夕に相応しい物を作成して店先で飾る。

個人参加=個人で自由にアートの笹飾りをしてもらう。

限り専用笹=大笹を何本か設置し、独創的な笹飾りを各自で付けてもらう。





=====
4. 連携プロジェクト02（2006年）「繁盛亭・天神橋筋商店街調査」



(財) 大阪市北区商業活性化協会との連携事業

『繁昌亭及び天神橋筋商店街活性化に関する調査』（報告書）（主査：塩沢由典）

序文：調査経緯、調査方法及び謝辞

報告要旨：エグゼクティブ・サマリー

I. 今取り組むべき課題

1. 天神橋インターネット・モール構想
2. 天神橋「梅酒の町」構想

II. 短期に取り組むべき課題

1. 天神橋筋商店街の5年後のビジョン：議論の大前提
2. 社交クラブ兼商店街経営塾
3. 粉モノワールドカップ及びチャレンジショップ
4. エンターテインメント・センター
5. ぶらぶらマップ
6. 落語の聴ける街、生きている街
7. 繁昌亭の集客を助ける仕組みづくり
8. 中高年に特化した街作りと新名所作り
9. 姉妹都市等による朝市及び100円運動

III. 長期に取り組むべき課題

10. 観光グルメの街づくり
11. 外部の協力：大阪21世紀協会、水上バス、市営交通
12. 歴史の見える街・落語の町
13. 総合的な創造活動の町づくり

IV. 分析

V. 参考資料

1. 天神橋筋商店街店主の提案
2. りそなチャリティー寄席のアンケート結果
3. 粉モノグルメマップ
4. 落語家が好きな天神橋筋商店街グルメリスト

=====
5. 連携プロジェクト03（2007年）「東梅田・中崎・北天満レトロストリート構想」



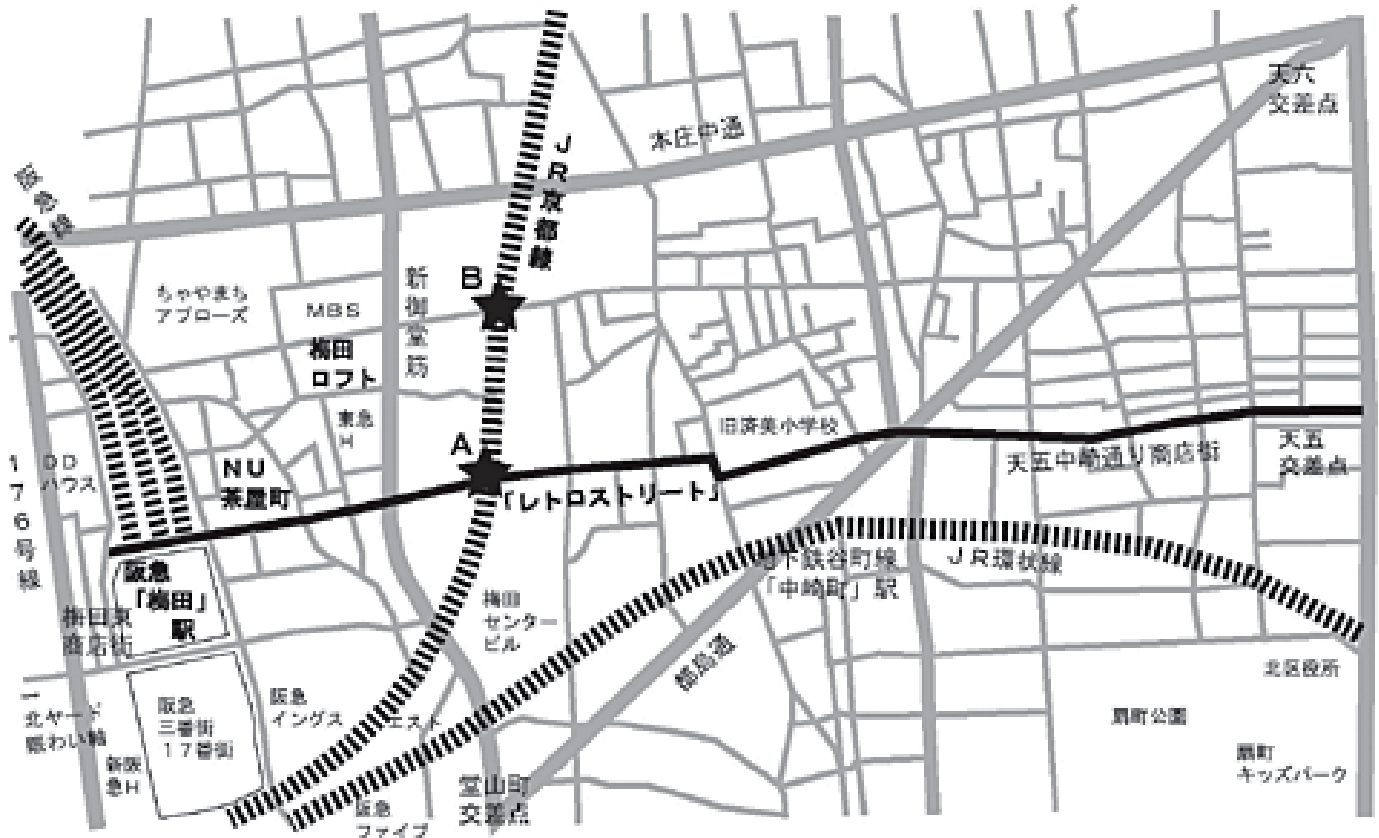
(<http://shibata-shotenkai.com/retrostreet/index.html> の記録)

「レトロストリート」とは？

大阪駅の周辺地域は、2011年の駅地域再開発までに環境が大きく変わることが予想されます。そこで、上個性的な商店の集積が始まり、人の流れができつつあるが、閑静な住宅地との混在地域である中崎を、人の流れを誘導して「文化の香り高いまち」として整備するとともに、静かな環境を維持することも大切と考え、(財)大阪市北区商業活性化協会／地域開発協議会では大阪市立大学の創造都市研究科とともにプロジェクト（レトロストリート構想）をスタートさせました。

これは、実は、梅田駅から中崎・北天満に抜けるJRガード下の道は、図のA、Bのように二箇所のみであることから、Aの道＝「NUちゃやまち→ガード→済美小学校・中崎町駅→中崎・黒崎商店街→天神橋筋に抜ける道」を「レトロストリート」として位置づけ、その現況を調査して、地域の住宅環境と新しい店との関係を調査・研究し、秩序だった「文化の香り高いまち」としての地域整備と活性化のための方向性を探ることにしているものです。

【参考文献】『まちづくりと創造都市』（塩沢・小長谷他，晃洋書房 2007）



図：梅田東・中崎・北天満地区と「レトロストリート」

(エリア1) 梅田東エリアとは？



梅田東地区は、芝田町・茶屋町などからなっています。茶屋町は南北に曲線的に横断する旧能勢

(池田) 街道筋に三軒(鶴、萩、車)があったことに由来します。明治中頃には木造9階建の凌雲閣がそびえていたことで有名でした。

もともとは交差していた阪急電車と旧国鉄の間に高架問題があり、その解決のため、阪急梅田駅は順次北上移設されていきました。

1969年には茶屋町の東に新御堂筋が開通するとともに、この地区の繁華街としての発展も進みます。

1970年代より、芝田町周辺地区には、阪急三番街、古書のまち「かっぱ横丁」、グランドビル、DDハウスなどができて、梅田駅東地域の骨格ができていきました。

1989年にMBS本社、梅田ロフト、1992年にちややまちアプローズなどが開業し、1990年代には、第1次の茶屋町開発ブームとなります。古い家の多かった茶屋町に突然大きな交通流動が生まれ、まちが変容していきます。

1998年の茶屋町市街地再開発事業の都市計画決定により、2000年代に第2次の茶屋町開発ブームとなります。2005年に阪急レトロストリートの起点ともいべき芝田地区からの東に向かう通りにNUちややまち、またアーバンテラス茶屋町などが開業、若者の流れができるようになります。今後は、アーバン茶屋町プロジェクトなど東部の開発も予定されています。

全体として、若者向けの店・複合商業施設が多く並ぶスポットであるとともに、昔の風情のある路地が残っている不思議な空間もあります。

この地域では、北梅田地区まちづくり協議会の活動や、宝塚造形芸術大学大学院や上田安子服飾専門学校などの生徒さんの活躍により、地域マップなどを作る運動もさかんです。

2011年に阪急高層化、北ヤード開業となりますが、北ヤードのメインストリートである南北軸と東西軸のうち、東西軸は、賑わい軸と称されるように、若い人を中心にして大きな人の流れが予想されます。この通りは、現在のヨドバシ北側の大通りに接続し、その流れは、芝田商店会から阪急ガード、NUちややまちを通過して、レトロストリートに向かうのです。地域も大きく変容していくことが予想されます。

レトロストリートの起点ともいべき芝田町商店街では、素敵なホームページ情報も公開しています。

さあ、レトロストリートに出発しましょう。

(エリア2) 中崎エリアとは？



堀江、アメリカ村、南船場のように、大阪において旧来の多くの商店街とはやや別に、若者に支持され活況を呈している街区は、鶴坂貴恵(2003)以降「新しい街」と呼ばれることがあります。鶴坂によれば、「新しい街」では、①若者を中心とするこだわりの店舗の集積、②新しいネットワークの形成、によって商業集積として新陳代謝がおこり、それがまちの活力になっているとされています。

そのような「新しい街」の第二世代として、中崎町があります。中崎町は、西日本最大の商業集積である梅田駅前から東に10分ほど歩いたところにある、戦災を逃れた数少ない地域であり、そのため都心にも関わらず古い住宅がそのまま残っている地域です。

この中崎町において、町屋の改装により1997年にギャラリー「楽の虫」が、また1999年にアトリエ兼カフェ「創徳庵」が開業しました。これを契機に、その後半年ほどで若者たちが同様に古民家を改装し様々な店舗が開業しはじめたのです。

2001年には両店のオーナーは共同で「中崎町アートフェア」を開催し、中崎町におけるカフェやギャラリーとの連携をはかります。また同じ年に、パフォーマーであるN氏が「天人」を開業します(図15-1(a))。

こうした一連の動きがマスコミの目に留まり、様々な報道されたことから、中崎町は一躍、若者の街として注目を浴びるようになりました。

図15-1(b)のように、二一世紀に入り数年で、カフェや雑貨店などが多数出店し、まちが変わりつつあります。

その後出店した中崎町のランドマークとしては、「R cafe」と「コモンカフェ」の2店舗があります。「R cafe」は近畿大学と大阪市立大学の学生らが卒業制作のために長屋を改装した2003年にオープンしたカフェ兼ギャラリーです(当時の学生の一人が大学卒業後も店舗を引き継いでいます)。「コモンカフェ」は「扇町ミュージアムスクエア」に携わっていたY氏が主体となっているカフェで、芸術・文化とのコラボレーションと飲食業へのインキュベーションを目的に2004年にオープンしたものです。日替わりのマスターによって運営されているカフェです。

この数年、中崎町はさまざまな雑誌やメディアで取り上げられ注目されていますが、これを一過性のブームで終わらせないということもふくめ、店及び町の活性化を目的に行われているイベントが「ナカザキチヨウ蚤の市」です。アイデアはもともと「楽の虫」のオーナーが発案したのですが、2007年4月からは、当初から実際のマネジメントをしていた「花音」のオーナーが事実上の主催者となっています。

具体的には、毎月第一日曜日に、参加店舗が、各店舗前に共通のポスター・看板を設置し、その日限定の何らかのアクション(例えば、オリジナル商品を販売したり、あるいはミニシアターの開催を行ったり)をするものです。

第一回目は2006年2月に、オリジナルメンバーである「楽の虫」・「チャイクラブ」・「花音」の経営者が分担して、主に自店舗周辺の店舗経営者に参加店舗を募集し、10数店舗で開催されました。「蚤の市」の知名度や人気が高まるに連れて参加店舗も増え現在は29店舗(内25店舗が女性経営者、圧倒的に女性経営者が多い)にも上っています。

運営上の工夫について、「花音」の経営者は、「お客様や店、みんなが楽しめて得ができる。常に飽きさせない新しいイベント企画ができるように工夫しています。また、蚤の市マップを作ったのもひとつの工夫です。」と回答しています。

開催にあたっては、「永続的であること」「第一日曜日の定期開催」の二項目を決定し、参加者の負担が軽く長続き出来る方法として、白黒版であったがマップも作成しました。目印のポスターも第一回目から使用しています。

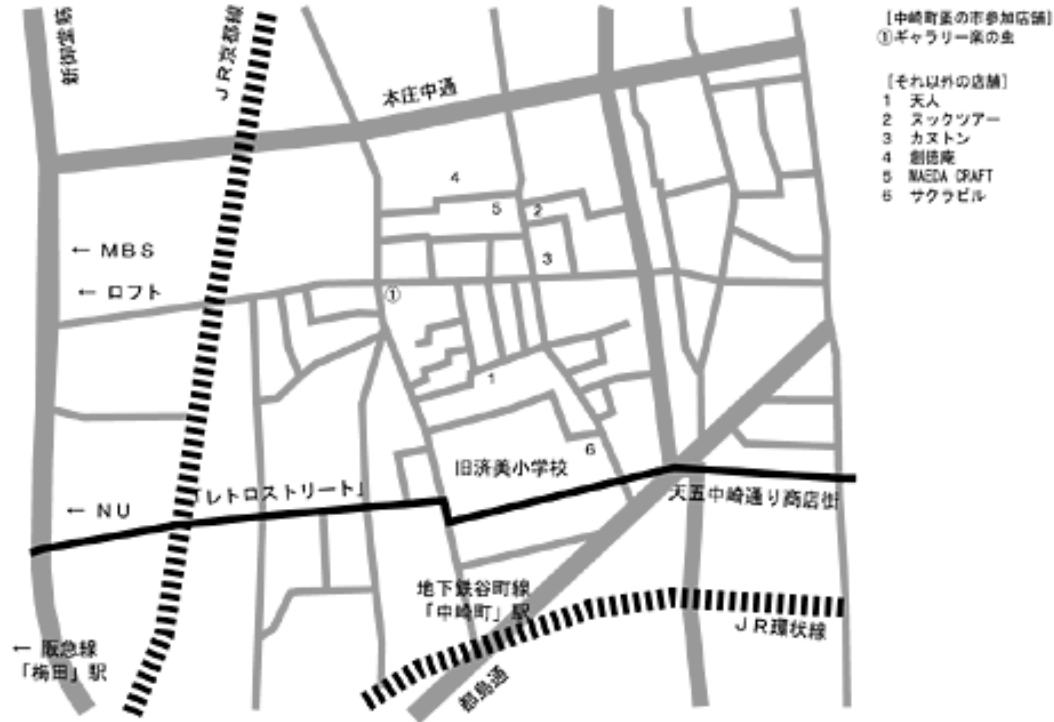
マップ作りにも工夫が施されています。参加店舗はなかなか宣伝に経費をかけることが出来ない。そこで、こうした店舗にとって負担が少ない仕組みが考えだされました。各店舗の経営者が自ら紹介文書き、写真二枚とともに「花音」店主に提出し、「花音」店主が友人のイラストレーターにマップとしてのデザインを依頼し最小ロットの一万部を印刷しました。これを当時の参加店舗二六で頭割りし、一部10円で販売しています。

迷宮のような路地のまち中崎町を訪れる人々にとって最大の問題は、「どこに、どの様な店舗が有るか分からない」という点です。「蚤の市マップ」はこうした問題を解消し、なおかつマップ製作を通じて参加店舗の緩やかな連帯も生まれています。こうした連帯は、参加店舗同士でお互いに買い物をしたり、飲食をしたりという形で広がっています。

ナカザキチョウ蚤の市に関する情報交換は、現在では主に「ミクシー (mixi)」のサイトを利用しておこなわれており、活発な意見交換などもおこなわれています。

【参考文献】『まちづくりと創造都市』（塩沢・小長谷他，晃洋書房 2007）。鶴坂貴恵（2003）『商業集積地活性化の意義』『商業集積の活力についての調査報告書』産開研資料 No. 80、大阪府立産業開発研究所。

(a) 2001年



(b) 2006年



中崎町の店舗変化

(エリア3) 北天満エリアとは？



北天満とは、大阪市北区の天五中崎通商店街やその周辺地域を範囲とする地域です。

天五中崎通商店街は、黒崎東商店会浪花町商店街など4つの商店街から構成されており地下鉄中崎駅東側から、天神橋5丁目まで東に伸びる商店街です。

大阪空襲で焼け残った同商店街は終戦直後には映画館が並ぶなどにぎわっていました。

また20年以上前から「おいでやす通り」という愛称を用いて地域の人々に親しまれています。そして、今ではこのレトロな雰囲気、静かな人気を呼んでいます。

例えば、商店街内にある稲田酒店は、レトロな立ち飲みスタイルがメディア（『大阪人』、『文芸春秋』）に取り上げられ、知る人ぞ知る人気店です。

また最近では、商店街の周辺地域では、若者に人気の昔ながらの飲食店や路地裏の木造長屋を改造したカフェ、雑貨店などが点在しています。

こうした店舗と商店街は、マップ「てづくりのまち 北天満お散歩地図」でネットワークを形成しつつあります。

この活動は、商店街の有志が、新しい店が周辺に増えつつあることから「商店街だけにこだわらず、地域全体の魅力を発信しよう」と発案。地元のマロニエファッションデザイン専門学校（同区天神橋七丁目）の協力を得て完成にこぎつけました。

また、北天満地区には、災害時の指定避難場所として旧北天満小学校があります。この旧北天満小学校は廃校になってから、使用されず随分と年月が経過していました。そのため、校内は湿気に満ちカビの臭いで教室に入れられないのでは・・・と危惧されています。

そこで、地域の若い有志が「お掃除倶楽部」という組織を作り、週に1回のペースで校内の窓を開けて換気し、トイレや教室、講堂などの清掃を行いはじめました。

また、これとは別に「芝生倶楽部」という組織も存在しています。「芝生倶楽部」は、小学校の校庭に芝生を植え、手入れすること活動の主眼としています。そうすることで地域活動や災害時で小学校の校庭を利用する際に、ビニールシートを敷くだけで座る時など快適に利用することが可能になっているのです。

そこで、こうした地域の活動と商店街を中心とする商業者などが任意団体「北天満ユニオン」という組織を構成し、さらなる地域活性化を目指しています。

=====
6. 連携プロジェクト04（2008年）「大阪駅前ビル活性化計画作成調査」



「大阪駅前ビル活性化計画作成調査プロジェクト」

大阪駅前ビルは、駅前百貨店の建設、再開発の時期を契機に番号順に設立された開発であり、地下2階から地上2階までが飲食・物販、2階・3階が医院などの専門サービス業、主に4階以上がオフィスとなっている。

飲食が優位にあり、これまでは近隣のビジネスマンの昼食とアフター5の需要が多く、比較的庶民的な店が集積しているが、近年、ダイヤモンド地下街側がリニューアル（ディアモール）によるブランドショップの集積、東西線北新地駅の開通による通貨交通量の発生に伴い、近隣の需要も大きく変化しており、店舗戦略の再構築が急務となっている。

一方、梅田全体としては、JR駅ビルの建て替え、三越＝伊勢丹の出店、阪急の高層化、梅田北ヤード地区の大開発など、かつて、駅前ビルがつくられた時に匹敵する大変動の時期を迎える。

このような激動の時期を前に、駅前ビルとしても、交通流動や店舗戦略を踏まえて、あらためて活性化計画を策定する必要があり、また長期的には、ディアモール、マルビル、阪神なども協力して、JR大阪駅南側への人の流れの誘導と、長期的計画に結びつけていく必要がある。また流動については、過去に、1995年（平成7年）と1999年（平成11年）に中小企業診断センターによる調査を行っているが、その後10年近く行われていず、以上のような前提条件の大きな変化が生じているので、これとの比較検討も行う必要がある。

このようなことから、今回、大阪駅前ビル振興連合会の元に、第1ビル～第4ビルの委員を選出し、大阪市立大学大学院創造都市研究科（第2ビル6階サテライト教室）が指導して、振興連合会が事務局とする大阪駅前ビル活性化計画作成調査プロジェクト委員会を設置し、(株)（1）大阪駅前ビルの交通流動調査、(2)店舗ヒアリング調査を踏まえて、(3)今後の活性化計画を策定・公開するプロジェクトを計画する。なお、現実の調査にあたっては、大阪駅前地区の地域マネジメントをおこなう市の第3セクターである(株)大阪市街地開発と、「大阪駅前ビル・ディアモール合同商業調査委員会」を作っておこなう予定である。

7. 連携プロジェクト05（2009年）「商店街モバイルIT化事業計画」



商店街調査研究事業実施状況報告書（2009年度）

「携帯電話サービスの販売促進効果の調査」

調査研究グループ名：大阪市立大学大学院創造都市研究科 指導教員：明石芳彦 調査研究責任者：柳瀬孝浩
目次

I. 商店街調査研究事業

1. 商店街調査研究支援助成金交付申請書
2. 商店街調査研究事業収支予算書
3. 商店街調査研究事業概要書

II. 携帯電話サービスの概要

1. エントリー・ポイント機能1
2. エントリー・ポイント機能2
3. メール配信機能
4. コメント機能

III. 画面イメージ及びシステム構成

- 1. 画面イメージ (1) ~ (4)
- 2. 画面イメージ (5) ~ (13)
- 3. 画面イメージ (14) ~ (19)

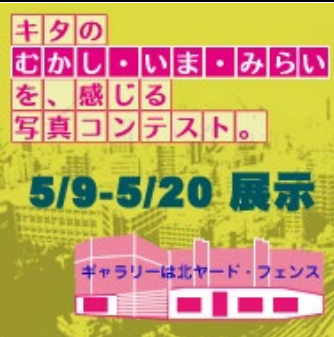
IV. 調査報告

- 1. 利用状況報告
- 2. 利用状況グラフ

V. 商店街調査研究事業

- 1. 商店街調査研究事業実施状況報告書
- 2. 商店街調査研究事業収支清算報告書
- 3. 商店街調査研究支援助成金申請書

8. 連携プロジェクト06 (2010年)「キタ写真コンテスト」



キタの
むかし・いま・みらい
を、感じる
写真コンテスト。

5/9-5/20 展示

ギャラリーは北ヤード・フェンス

変わりゆくキタの今の風景、これからも大切に残したいキタの風景、明日のキタを感じさせるワクワクする風景を写した写真を募集します。エリアは、いわゆる「キタ」。厳密にエリアを限定はしません。あなたが思う「キタ」を舞台にした風景写真を応募してください。

詳しくは、特設サイトをご覧ください。

<http://shibata-shotenkai.com/photo-con/>

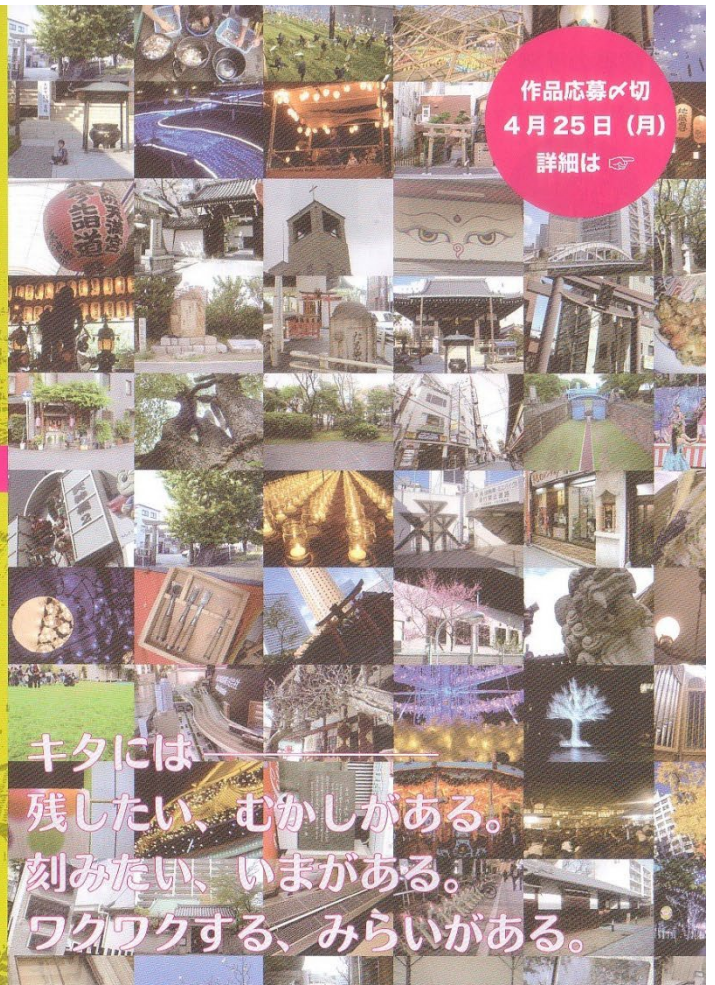
<p>■賞</p> <p>最優秀作品賞 (1点)</p> <p>芝田商店会賞 (1点)</p> <p>北区商業活性化協会賞 (1点)</p> <p>創造都市賞 (1点)</p> <p>フレッシュ賞 (1点)</p> <p>佳作 (5点)</p>	<p>■選考委員</p> <p>委員長 北田純三郎 (財) 大阪市北区商業活性化協会 理事長</p> <p>委員 小貝谷一之 大阪市立大学大学院創造都市研究科 教授</p> <p>委員 李暎一 宝塚大学大学院 教授</p> <p>委員 上水善之 大阪市立扇町総合高校 教諭</p> <p>委員 三島保 芝田商店会 会長</p>
--	---

受賞作品は、北ヤード工事現場仮囲いをギャラリーに見立てて、ビルボード・サイズにて展示します。その他、公共広報物にも使用予定です！ご家族やお友だちをお誘いのうえ、ぜひお越し下さい。

ギャラリーは北ヤード・フェンス

展示期間 5/9 (月) ~ 5/20 (金)

主催：芝田商店会・(財) 大阪市北区商業活性化協会 協力：大阪市立大学大学院創造都市研究科 後援：大阪市北区商店会総連合会・大阪市



応募の手順

① 作品をインターネットから応募 (http://shibata-shotenkai.com/photo-con/)

応募期間
3/10 (木)
~
4/25 (月)



インターネットの特設サイト
(http://shibata-shotenkai.com/photo-con/)
より応募。デジタルデータ (jpg ファイル) のみの
募集となります。
応募フォームより、必要事項を記入のうえ、
作品画像ファイルを添付してください。
応募点数は、一人10点まで。

② 応募作品は特設サイトで随時公開

応募作品は、特設サイト (http://shibata-shotenkai.com/photo-con/)
にて、随時公開しています。



③ 選考・入選の通知



選考委員による厳正な審査を行なったのち、
受賞作品を決定します。
受賞された方には、メールにて通知いたします。

④ 1000万画素数以上の画像ファイルを用意し、メールで送信

受賞された方は、受賞作品の展示用に
1000万画素数以上の画像ファイルを、
あらためて用意していただきます。



⑤ 北ヤード工事現場仮囲いをギャラリーに見立てて展示



受賞作品は、北ヤード工事現場
仮囲いをギャラリーに見立てて、
展示します。
ご家族やお友だちをお誘いのうえ、
ぜひお越し下さい。

展示期間
5/9 (月)
~
5/20 (金)

募集要項

【テーマ】

変わりゆくキタの今の風景、これからも大切に残したいキタの風景、朝日のキタを感じさせるワクワクする風景を募集します。
エリアは、いわゆる「キタ」。概算にエリアを限定はしません。あなご思う「キタ」を舞台にした写真を応募してください。

【応募期間】

2011年3月10日(木)~4月25日(月)

【応募方法】

インターネット特設サイト
(http://shibata-shotenkai.com/photo-con/)より応募。デジタルデータ (jpg ファイル) のみの募集となります。写真コンテスト応募フォームより応募下さい。
応募フォームにある、住所、電話番号、年齢、性別、氏名を必ずご記入ください。写真画像をお送り下さい。
ご記入いただいた個人情報、写真コンテスト以外の目的では使用いたしません。
※入選受賞の方につきましては、広報物等に写真を使用する際に、撮影者としてのお名前を明記する場合がございます。
入選作品には、改めて1000万画素数以上の写真ファイルをご用意していただきます。ご用意いただけない場合は、入選を取り消す場合がございます。

【応募データ規約】

本規約にご同意いただいた応募者にかぎり、コンテストに応募することができます。なお、応募された時点で本規約に同意いただいたものとみなします。また、本応募規約の主催者とは、芝田商店会及び大阪市立大学大学院創造都市研究科を指します。

- 1) 応募要件
 - ・応募できる作品は、応募者自身が撮影した未発表の作品にかぎらせていただきます。
 - ・作品に人物が写っている場合、肖像権その他の権利は、応募者の責任において処理していただくうえ、ご応募下さい。
 - ・万一、応募者が応募した作品につき、第三者とのあいだに紛争等が生じた場合、応募者ご自身の責任において当該紛争等を解決するものとします。
 - ・デジタルカメラで撮影された作品が対象となります。
- 2) 応募いただける作品の画像サイズは、2Mbyte以下とし、画像のファイル形式はjpgのみといたします。
- 3) 入選後、1000万画素数の画像ファイルをご用意していただきます。ご用意いただけない場合は、入選を取り消す場合がございます。
- 4) 郵送での受付は行っておりません。
- 5) 応募点数1人につき10点までといたします。なお、組

み写真の応募は行っておりません。
・入選後、1000万画素数の写真ファイルを用意できるもの

2) 作品取り扱い

- ・一旦応募された作品の撤回はできません。
- ・応募いただいた作品の著作権は著作者に帰属しますが、主催者には使用権が許諾されます。
- ・応募いただいた画像データは、送迎いたしません。
- ・入選作品展示中の作品の破損について、主催者は一切の責任を負わないものとします。

3) 作品内容の制限

- 応募作品が以下のような事項にあつたと判断した場合、予告することなく、選考から除外するとともに、特設サイトへの応募作品の掲載一覧から削除いたします。
- ・公序良俗に反しているもの。または反するおそれのあるもの。
 - ・第三者の著作権その他の権利を侵害しているもの。または侵害するおそれのあるもの。
 - ・第三者を誹謗中傷しているもの、またはプライバシーを侵害するもの。またそのおそれのあるもの。
 - ・法令等に違反し、または犯罪行為に結びつくもの。またそのおそれのあるもの。

4) 応募者の個人情報について

作品募集時に入力いただく個人情報は、当写真コンテスト事業の事務運営のためにのみ使用いたします。主催者は、応募者の個人情報その他の目的に使用したり、第三者に開示・提供はいたしません。
※入選受賞の方につきましては、広報物等に写真を使用する際に、撮影者としてのお名前を明記する場合がございます。

5) 法律上の規約

本写真コンテストに関連する法律等がある場合には、応募者は当該法律等の定めに従うものとします。

6) その他

主催者が必要と判断した場合には、本規約等を自由に変更できるほか、本写真コンテストの適正な運用を確保するために必要なあらゆる対応をとることができるものとします。
応募するにあたり、応募者は本写真コンテストの運営方法に従うものとし、その運営方法に對し一切の異議等を申し立てないものとします。
応募作品の画像データ送信中の事故、データ破損について、主催者は一切責任を負わないものとします。
本写真コンテストの応募に起因して応募者に生じる損害につき、主催者は一切責任を負わないものとします。

9. 連携プロジェクト07 (2011年)「パークアベニュー活性化計画」



2011年度パークアベニュー活性化提言 プロジェクト調査報告書 ((財)大阪市北区商業活性化協会商店街調査研究支援制度 2011年度報告書) 2012年3月

はじめに「パークアベニュー活性化計画プロジェクト」策定および公開にかかる調査研究について

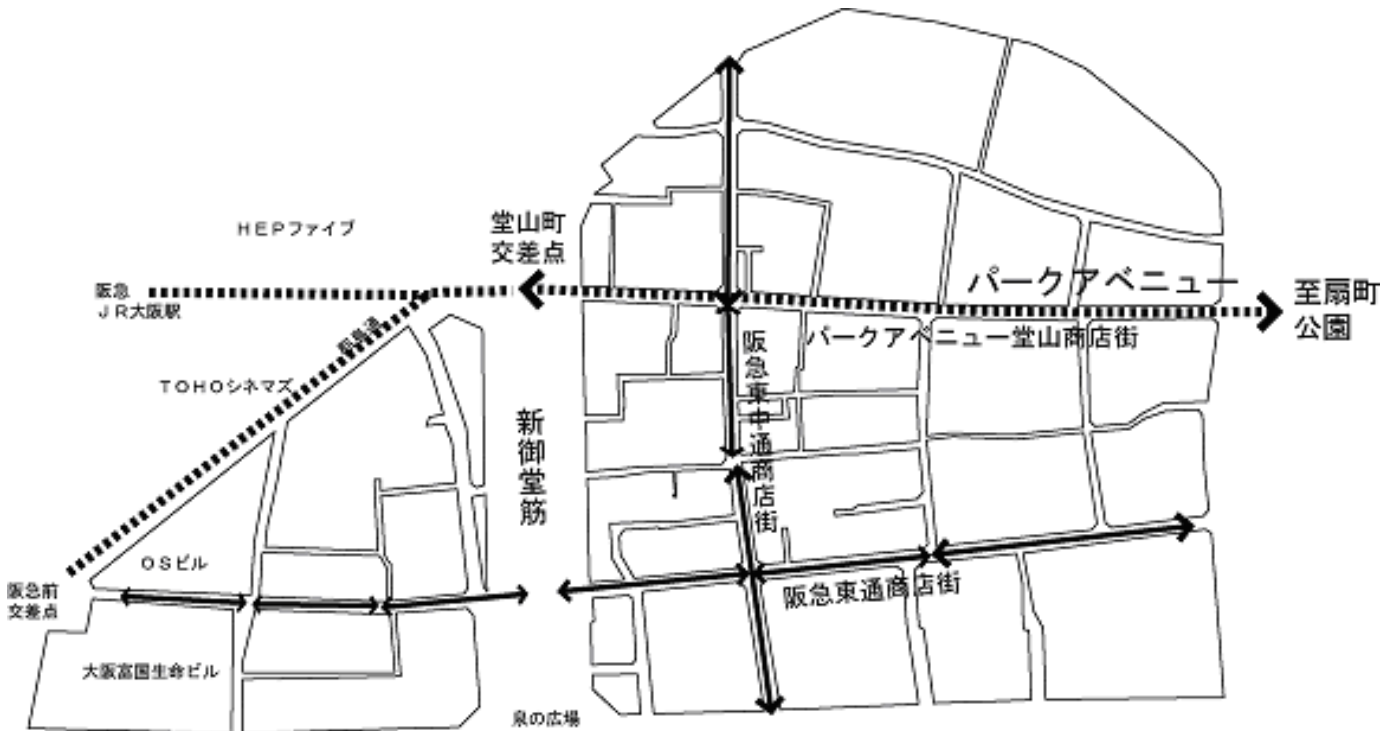
現在北区は、今後2012年までに、JR駅前ビルの建て替え、三越・伊勢丹グループの出店、阪急の高層化、梅田北ヤード地区の大開発など、かつて駅前ビルがつくられた時に匹敵する大変動の時期を迎えます。

このような激動を前に、商店街としても活性化計画を策定する時期にきており、キタの駅前開発を契機に設立された「(財)大阪市北区商業活性化協会」では、これまで、「大阪市立大学大学院創造都市研究科」と提携を結び、協働して「商店街調査研究支援助成金交付制度」を実施し、すでに7年目の実績となります。2005年度は「老松西天満アートストリート構想」、2006年度は「繁盛亭・天神橋筋商店街調査」、2007年度は「梅田東・中崎・北天満レトロストリート構想」、2008年度は「大阪駅前ビル活性化計画作成調査」、2009年

度は「梅田東商店街IT化調査」、2010年度は「北区写真展プロジェクト」を行ってまいりました。

このようなことから、今回は、阪急東中通り商店街振興組合と(財)大阪市北区商業活性化協会・大阪市立大学大学院創造都市研究科が協働することにより、今後の活性化計画を策定・公開するプロジェクトをおこない、ここにその結果をまとめることができましたので、ご報告申し上げます。

パークアベニュー堂山は、JR大阪駅・阪急百貨店東側にある堂山町交差点から、阪急東中通商店街、パークアベニュー堂山商店街、扇町協会、山西福祉会館を通り、扇町公園の中心に至る重要な通りです。扇町公園のまわりでは、北区役所、キッズプラザ大阪・地下鉄堺筋線・JR天満駅、天神橋筋商店街(天神橋4番街)と北区の中心的施設につながっており、まさに大阪駅から公園に接続する有利な位置にあります。



本報告では、北区の活性化にあたっては、①現在投資の進む大阪駅前(阪急、阪神、うめきた、ステーションシティ)と、②北区の地域文化・地域商業・歴史の中心である天満・天神地域・天神橋筋地区とをむすぶ東西交通流動の重要性を指摘し、そのためにもっとも有望な位置にあるパークアベニューの整備・および将来的には拡幅をおこなうことを提言することにより、北区の発展を展望するものです。

I. 大阪市北区の現状(略)

II. 駅前大開発の直前における北区の商業の現状—大阪=梅田駅から1駅いったところが元気(略)

1. 北区の商店街の現状—全国平均からみれば健闘
2. 類型化
3. 活性化の兆しのある類型

III. なぜ回遊都市キタ構想なのか?—駅から人が広域に流動するオープンなまちづくりの重要性(略)

1. 現状認識—大阪市北区は、2011~2012年までに環境が激変しつつある!(略)
2. 地価・地代の理論(略)
3. 商業・まちづくりに関しての2つの考え方

駅前のような大開発をおこなう場合に2つの考え方がある。駅前だけで人の流動を閉じて、他に出さないか、外に流動が流れるようにして、まち全体を繁栄させるか、である。

(A)「ターミナルは囲い込んでまわりのまちと別の世界をつくる」(囲い込み型)

(B)「まわりに人が歩いていくことがまちを活性化させる」(まちづくり型)

北区のみならずこれまでの大阪における大規模開発では、「商業の根本は「人の流れを作る」ことである」とい

う面が必ずしも考慮されてこなかった面がある。都市の魅力は個店の集積にあり、そのような「街を歩く楽しみ」が都市を活性化させるという大原則がある。以下いくつかの事例から説明していく。

4. 大規模開発と周辺のまちづくり

大阪市の前々前市長（磯村市長）が、「国際集客都市」というテーマを掲げていたときに、筆者が交通論の専門家と研究をしており、そのとき、交通の観点から、大阪の交通行動・特に観光行動は、ある目立った点で、他の都市、特に東京・京都・神戸などと違った性格をもっていることを発見した。

それは、大阪の来訪者の行動は「点」だということである。他の都市は、みな「線」か「面」なのである。大阪は、「国際集客都市」構想の時代に、フェスティバルゲート、大阪ドーム、USJ、WTC、ATC、OCAT、クリスタなど、拠点的开发は沢山やってきたが、そのまわりのまちづくりの段階に入っていなかった。

筆者は、世界的な本当の「国際集客都市」は、「ビッグプロジェクト+まわりの商店街等のストリート」であるといってきた。ヨーロッパのパリ、ローマ、ミラノ、ベニス、マドリッド、なんでも良いが、昔のビッグプロジェクトとは、王宮施設であったり、美術館であったり、コロッセウムであったりする。いまでいうと、大規模商業開発やテーマパークである。ヨーロッパの国際集客都市では、こうしたビッグプロジェクトに行き、その後、もう一泊して、回りの商店街でそぞろ歩きできる楽しみがある。これが本当のまちづくりである。他の都市、東京・京都・神戸でも、そぞろ歩きできる道がある。ところが大阪は、点的開発は沢山あったが、そのまわりのまちづくりの連携が少ない。アメ村や堀江は、計画されたものではなく、地元が自然発生的に作り上げてきたものだった。

ビッグプロジェクトは、できたときは勢いがあっても、やがて勢いが衰える。そのとき、まわりのまちができていれば、永遠の繁栄を得ることができるのである。まわりのまちづくりをすることが、中心にとっても大切なことなのである。

しかし、これからは、「ビッグプロジェクト+まわりの歩き回れるまち」というまちづくりの法則の後半を本当に真剣に考える時期にきており、特にキタについてはそういうことがいえるのである。以下いくつかの事例から説明していきたい。《例1》USJ、《例2》フェスティバルゲート、《例3》京都駅ビル（ターミナル例）、《例4》京都・三条通、《例5》東京・渋谷駅（ターミナル例）、《例6》大阪・阿倍野駅（ターミナル例）

5. 車交通に対して、ゆっくり「歩くまち」の重要性 《例7》彦根市「夢京橋キャッスルロード」から「四番町スクエア」へ、《例8》松山市「ロープウェイ通り」（坂の上の雲のまちづくり）

6. 商業・まちづくりの原則7

こうした事例から以下の原則が得られる。

.....

(1) 商業・まちづくりの原則とは、1) 「人の流れをつくる」こと（基本）、2) しかも、車ではなく、歩いて楽しいまちをつくること、3) 特に、若い人（予備校生、専門学校生、大学生、大学院生）の流動を作ることの重要性、

(2) 周辺が繁栄することによって、中心もますます繁栄する、

.....

ということである。

既述した、商業・まちづくりに関する2つの考え方＝(A) 「ターミナルは囲い込んでまわりのまちと別の世界をつくる」(囲い込み型) と (B) 「まわりに人が歩いていくことがまちを活性化させる」(まちづくり型) について、(A) の典型例というのは、大都市では意外に少なく、上述の京都駅前の例が典型である。その他は (B) が多い。

駅前の大規模開発者にとって、(A) は一見自社のみの利益になると思われ検討する可能性があるかもしれないが、実際は、多くの事例で (B) の方が街が繁栄し、最終的に良いことがわかる。駅前の大規模開発者にとっても (B) の方が長期的に利益があるのである。

それは理論的な裏付けがある。それは、2. の地価・地代の理論から、地価は、必ず中心の駅を頂点としてまわりに広がる傘のような形をしているからである。

したがって、周辺に人が流れ、周辺の価値が高まると、傘の周辺の地価が上昇する。そうなれば、中心部はますます価値が上がるのである。政策（B）によって、中心部はますます活性化する。地価の理論から、囲い込み法（A）よりもまちづくり法（B）の方が、中心部もますます繁栄するのである。

7. 住宅地に関して、静かな環境を整備するには？ 《例9》中崎・北天満地区、《例10》大阪市・平野区（まちぐるみ博物館+地区計画の例）、《例11》奈良市・ならまち地区（町屋カフェ・ギャラリー+景観形成地区）

8. キタの今後

これまでの検討を総括すると、商業および住宅の立場からは、本来は、

×人を囲い込むのではなく→ ○面的な広がりをもった、歩いて楽しいまちを拡大。

×人が散漫に流れるのではなく→ ○プロムナードとして整備するところは整備する。

×無秩序な開発でさわがしくなる→ ○住宅地は静かに整備。

×好ましくない施設が入ってくる→ ○地域で管理。

などの点が、地域マネジメントとして必要となってくる。北ヤードから人の流れを南方および東方に誘導し、北区全体の商業が活性化し、また住宅地は保全して文化的整備をおこなう構造を作る必要がある。このように新しい流れを地域全体に誘導し、グレーターキタとして活性化・整備できるかどうか、2011～2012年までに早急に検討すべき課題であり、そこでは、周辺の事業者、町内会、地域団体のみなさまを含む関連団体の役割が重要になってくる。また、産官学の力を合わせて検討しなければならない。

IV. 東西流動の重要性（1）－うめきたの構造とレトロストリート構想

1. うめきたの構造と地域・・・東西のメインストリート「賑わい軸」の接続と延長

うめきた計画は、南北および東西のメインストリートによってつくられているが、そのうちの東西のメインストリートは、徒歩客の流動も重要となる「賑わい軸」である。この北ヤード「賑わい軸」の延長は、現在のヨドバシ北側の通りから、新阪急ホテルの通りにつづく、ここは歩行者流動量の激増が予想される。この東が、若者のまちとして脚光をあびる「中崎町」「黒崎町」をへて天神橋筋である。

2. 賑わい軸延伸が、レトロストリート構想

ところが、北ヤード・茶屋町地域から、JRのガードを抜け北区東部へ抜けられる個所は（大通りを除くと）2個所しかなく、他にはない。A地点＝NUちゃやまの通り、B地点＝ロフトから抜ける通りの2つのみである。これが主要なルートの代表であり、特にA地点が、上記の賑わい軸のほぼ延長→NUちゃやまち→JR→済美小学校・中崎町駅横→中崎・黒崎商店街→天神橋筋に抜ける道であり、現在も、個性的な商店の集積が始まり、人の流れができつつある個所である。しかしながら、このままで放置していれば、乱開発になるおそれもある。中崎・北天満地域は、閑静な住宅地との混在地域でもあり、人の流れを誘導して「文化の香り高いまち」として整備するとともに、静かな環境を維持することも大切である。人の流れとともに開発の流れは今後確実にやってくることから、秩序だった地域計画の策定も急務である。そこで、以下のように「梅田東・中崎・北天満レトロストリート構想」を提案した。

V. 東西流動の重要性（2）－阪急の東西コンコース構想

実は、東西軸・東西流動を重視しているのは、うめきただけではなく、阪急も以下の東西コンコース構想で進めているところである。

【資料1】◎「東西コンコースが開通 阪急うめだ本店前、利便性高まる」（日経新聞 10月3日）。

【資料2】◎「ようやく混雑解消？ 阪急梅田本店前の東西コンコース開通」（産経新聞 10月2日）。

VI. 東西流動の重要性（3）－パークアベニュー活性化

1. 阪急軸延伸が、パークアベニュー構想

まさにこの阪急の東西軸に接続するところが、パークアベニューである。パークアベニューはその先に扇町公

園という大阪を代表する憩いの場所があり、ここへの流動を確保することにより、「うめきた第2期の緑街区」と東西にならべて、北区の「大公園都市構想」「パーク都市構想」となると考えられる。そこで、本報告書では、ここにパークアベニュー拡幅・整備計画を提言するものである。

2. これまでも提案されつづけてきたパークアベニュー活性化計画

現在の大阪市北区商業活性化協会の前身の一つである北区地域開発協議会でも、実に20年近く前から、このパークアベニューに注目し、整備計画を検討してきた。以下にその一旦を紹介する。

【資料3】◎『きた開発』1983年1月 6号（発行：北区地域開発協議会 わたしたちの街づくり）◎
一足早く、扇町<-->御堂筋を結ぶ遊歩道誕生。

【資料4】◎『きた開発』1983年1月 6号（発行：北区地域開発協議会 わたしたちの街づくり）◎
東部地域の機能分化を考えるー再開発ネットワークの提言ー。

【資料5】『きた開発』1984年7月 10号（発行：北区地域開発協議会 わたしたちの街づくり）◎
報告書完成「北区地域活性化のための計画」から、○東部地域の活性化は三つの拠点開発が基本、○望まれる歩行環境整備と交差点整備、○扇町公園の再整備はー東西交流の結節機能を、○公民協力 地区整備の典型として、○2千億円の`都市再開発事業` 国鉄コンテナヤードとその周辺、○歴史にちなんで周辺整備ー真田山公園と楯原橋。

【資料6】◎『きた開発』1984年7月 10号（発行：北区地域開発協議会 わたしたちの街づくり）◎
◎パークアベニュー堂山商店会。

【資料7】◎『きた開発』1986年10月 17号（発行：北区地域開発協議会 わたしたちの街づくり）◎
◎（21世紀の）扇町公園および周辺再開発計画 ◎扇町公園及びその周辺の課題について。

VII. 大阪市立大学大学院創造都市研究科の連携ととりくみ

1. プロジェクトの経緯

創造都市研究科は、このような設立趣旨から、実践的であり、また、大阪市立大学の多くの部局の中では、ただ一つ大阪市北区に立地しているとの経緯から、北区のまちづくりを応援することに勤めてきた。特に、重点研究として創造都市研究科が立地する大阪市北区を重視している。

北区は、クリエイターや関連の学校が全大阪市の4割から6割が集中しているというポテンシャルを利用し、「創造都市キタ・扇町創造村構想 (<http://www.cckita.jp/>)」として活性化に取り組んできた。

特に、大阪市北区地域開発協議会の姉妹機関である「(財)大阪市北区商業活性化協会」との間に包括提携規約を締結し、北区内の商店街等の団体とともに、調査研究事業をおこなうこととなり、これまでに以下の通り実施してきた。1) 2005 (平成17) 年度「老松西天満アートストリート構想」2) 2006 (平成18) 年度「繁盛亭・天神橋筋商店街調査」3) 2007 (平成19) 年度「梅田東・中崎・北天満レトロストリート構想」4) 2008 (平成20) 年度「大阪駅前ビル活性化計画作成調査」5) 2009 (平成21) 年度「梅田東商店街IT化調査」6) 2010 (平成22) 年度「北区写真展プロジェクト」。2005年には、古美術商やギャラリーが約80軒集積する老松通りを「老松西天満アートストリート構想」として地元と当研究科をはじめ地元の小学校や芸大等の学校が連携して取組んだ。2006年には、地元商店街や町内会と連携して「繁昌亭及び天神橋筋商店街活性化に関する調査」を実施した。2007年には、震災をまぬがれた古い家が残る中崎町へ北ヤードの東西のにぎわい軸からつながるルートを「梅田東・中崎・北天満レトロストリート構想」として、地元商店会・町内会と地域に集積する芸術系の大学や専門学校とともに、例えば授業の一環として各種イベントを開催したりするなど、人の流れをつくり地域を整備する構想に取り組んできた。2008年度には大阪駅前ビルと連携し「大阪駅前ビル活性化計画作成調査」を実施した。2009年度は「梅田東商店街IT化調査」、2010年度は「北区写真展プロジェクト」を実施した。

2. 東西流動調査 (参考資料)

それでは、上記のような「東西流動」とは、現状では、実際にはどれぐらいの規模のものであろうか、以下は、レトロストリートの交通流動を調査した牛場の結果を掲げる (牛場・小長谷2008)。

- ・Loft 側で 20 代男女が多いのは、想定通りである。
- ・中崎側で 30・40 代男性が少ないのは、平日の昼間が要因（想定内）と思われる。
- ・中崎側で 20・30 代女性が多い。特に 30 代女性は Loft 側ではそれほど差が無い。
- ・全体として、中崎側はロフト側に比べて約 60%の通行量となっている。
- ・男女比でみると男性 50%：女性 70%であり、20・30 代女性市場のボリュームがある。

などの点がわかった。

最後に、回遊都市キタ構想という流れを作るデザインを、上記のような、北区商業活性化協会の調査研究プロジェクト等とともに重ね合わせた模式図を示す。詳しくは創造都市キタホームページをご覧ください。

【参考文献】大阪市北区地域開発協議会『「きた開発の歩み」』各巻。射手矢武・牛場智・吉川浩（2009）「商店街のマネジメント」（塩澤由典・小長谷一之編『まちづくりと創造都市 2』）晃洋書房。乾幸司（2008）「平野のまちづくりー町ぐるみ博物館」（塩澤由典・小長谷一之編『まちづくりと創造都市ー基礎と応用』）晃洋書房。牛場智・小長谷一之（2008）『レトロストリート調査研究報告書』。牛場智（2009）「まちづくりにおける地域商業の新しい潮流の分析ー都市型商店街を事例とした経験経済モデル（体験型商業）とソーシャル・キャピタル論によるアプローチ」（大阪市立大学大学院博士学位論文）。木沢誠名・牛場智・吉川浩（2008）「クリエイティブな商業とまちづくりーミナミ・堀江・中崎町」（塩澤由典・小長谷一之編『まちづくりと創造都市』）晃洋書房。桐生幸之助（2009a）「都市開発のマネジメント」（塩澤由典・小長谷一之編『まちづくりと創造都市 2』）晃洋書房。桐生幸之助（2009b）「所有権と利用権の多様な形態にもとづく都市再生戦略ー東京と地方における都市再生の比較の観点からー」『創造都市研究 e』第 4 巻第 1 号。久保秀幸（2007）「小街路空間がもたらすまちづくり効果についてー彦根市四番町スクエアの事例からー」『創造都市研究』第 3 巻第 1 号（通巻 3 号）。小長谷一之（2002）「奈良市・ならまち」『都市研究』第 2 巻。塩澤由典・小長谷一之編（2007）『創造都市への戦略』晃洋書房。塩澤由典・小長谷一之編（2008）『まちづくりと創造都市ー基礎と応用』晃洋書房。塩澤由典・小長谷一之編（2009）『まちづくりと創造都市 2ー地域再生編』晃洋書房。日経新聞 10 月 3 日。産経新聞 10 月 2 日。

=====

10. 連携プロジェクト08（2012年）「梅田東（芝田・茶屋町・鶴野）ファッションタウン」



【1】大阪市北区商業活性化協会＝創造都市研究科包括連携プロジェクト（2012年度）『梅田東ファッションタウンフォトコンテスト』（公募）主催：大阪市北区商業活性化協会・芝田商店会、後援：上田安子服飾専門学校・大阪市立大学大学院創造都市研究科（0）添付パンフレットで公募（1）上田安子服飾専門学の学生による写真撮影 2013年2月5日（火）於：街中。

【2】（展示）（2）授賞式・発表 2013年2月26日（火）於：上田安子服飾専門学校6Fライラックホール（3）展示・写真展（A）2013年3月8日（金）→18日（月）大阪市北区茶屋町1-32のヤンマービルの建て替え工事現場の外壁（紀伊国屋書店梅田本店を出て百又ビル、旧梅田イングスの間）（B）2013年4月以降区役所1F展示。

UMEDA HIGASHI Fashion town Photo Contest

梅田東地区で
Street Snap 撮影
2013 2/5

ウメダヒガシ・ファッションタウン写真コンテスト

2月5日(火)
写真撮影
学生が街に出て
撮影します

2月26日(火)
授賞式・発表
上田安子服飾専門学校
6F ライラックホール

3月上旬
写真展
ヤンマーの
壁面

上田安子服飾専門学校の
学生がオシャレを競って
梅田東地区のストリートで
写真を撮影します



▼各賞

- 大阪市北区区長賞
- 大阪市北区商業活性化協会賞
- 芝田商店会：梅田東連合町会賞
- 上田安子服飾専門学校賞
- 大阪市立大学大学院創造都市研究科賞
- ・受賞 5 本 (各賞状と賞金 2 万円)
- ・佳作 5 本 (各賞状と賞金 5 千円)

▼審査委員

小長谷 一之 大阪市立大学大学院創造都市研究科

三島 保 芝田商店会

三原 道子 上田安子服飾専門学校

▼コンテスト応募作品発表・展示

4月以降大阪市北区区役所内 1階ホールにて展示予定
学生作品も含む。

主催：大阪市北区商業活性化協会
芝田商店会

後援：大阪市立大学大学院創造都市研究科
上田安子服飾専門学校



『梅田東ファッションタウンフォトコンテスト』主催：大阪市北区商業活性化協会・芝田商店会、後援：上田安子服飾専門学校・大阪市立大学大学院創造都市研究科

(1) 上田安子服飾専門学校の学生による写真撮影2013年2月5日(火) 於：街中

(2) 授賞式・発表2013年2月26日(火) 於：上田安子服飾専門学校6Fライラックホール

(3) 展示・写真展A 2013年3月8日(金)→18日(月) 大阪市北区茶屋町1-32のヤンマービルの建て替え工事現場の外壁(紀伊国屋書店梅田本店を出て百又ビル、旧梅田イングスの間)

①展示場外観、

②大阪市北区区長賞【坂手咲穂作】、

③大阪市北区商業活性化協会賞【井藤恵作】、

④芝田商店会：梅田東連合町会賞【有本愛作】、

⑤上田安子服飾専門学校賞【丸田泰造作】、

⑥大阪市立大学大学院創造都市研究科賞【角彩希作】
【この作品の権利は原作者に帰属します】

B 2013年4月以降区役所1F展示。

大阪市北区商業活性化協会＝創造都市研究科包括提携プロジェクト(2012年度)

11. 連携プロジェクト09 (2013年)「阪急東通りマップ作成」振興プロジェクト

「梅田東通商店街マッププロジェクト」に関する調査研究

(1) 構想 (申請書)

周知のように、大阪市北区は、2010年以降、駅前で大規模開発が相次ぎ、これにより、周辺の土地利用も多大な影響を受け、商業地・住宅地とも、甚大な構造変化を余儀なくされることは確実である。

既存商店街の再活性化と新たな価値の掘り起こしによるブランド化がもとめられている。

また、近年の地域活性化においては、他の町との差別化という観点から、個性がもとめられ、歴史をいかしたまちづくりが主流となっている。北区にはそのような歴史資源が多数あり、梅田東も例外ではない。(1) OSビル、(2) 東中通りの大黒さん、(3) 円頓寺 (北野の萩の寺、さぎとりの舞台)、(4) 太融寺 (西国二番、淀君の墓と不動尊)、(5) 旧池田街道、(6) 網敷天神社、(7) EST裏の歯神さん、(8) 大石内蔵助の父の墓、(8) ごて地蔵など、多数ある。このような地域資源を一般に認知してもらい、北区地域における地域意識の醸成、地域活性化に結びつけることが求められる。

そのため、「梅田東通商店街マッププロジェクト」を行い、このような資源を地図化して商店街振興に結びつける調査研究を実施する。

具体的には、地域調査、および関連資料収集により、「親しみやすいイラストマップ」を編集作成する。プロジェクト委員会においておこなう。これは、商店街プロモーションを兼ねる。

このようなことから、今回、阪急東通商店会連合会が大阪市立大学大学院創造都市研究科 (第2ビル6階サテライト教室) の指導のもとプロジェクト委員会を設置し、上田安子専門学校の専門家とともにマップづくりで、地域意識の育成とまちづくり考察の契機となるプロジェクトを計画しております。つきましては、北区の活性化をめざす貴団体よりの助成をいただき、地域意識の育成とまちづくり考察の契機の一助としたいのでよろしくお願いいたします。

(2) アイデアスケッチ



(3) 完成品



©阪急東通り商店街マッププロジェクト委員会(阪急東通り商店街協会/関)大阪市北区南船場活性化協会/大阪市立大学大学院 創造都市研究科/上田女子服飾専門学校

Illustration & Design 堀内沙希佳



©阪急東通り商店街マッププロジェクト委員会(阪急東通り商店街協会/関)大阪市北区南船場活性化協会/大阪市立大学大学院 創造都市研究科/上田女子服飾専門学校

Illustration & Design 堀内沙希佳